

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	福祉サービスの組織と経営	担当教員 (実務経験)	大島 康雄 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 社会福祉士として社会福祉士事務所に勤務		
対象年次・学期	4年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	30回	時間数	60時間
授業目的	公的な福祉サービスを提供するには、提供者側の専門性と継続性が必要になってきます。この科目では、専門的に継続的にサービスが提供できる組織について学びます。				
到達目標	組織形態である法人や組織論、リーダーシップ論を理解することができる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・社会福祉士養成講座1 福祉サービスの組織と経営』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	定期試験(2回)、毎回の授業後に配布するリアクションペーパーの内容を加味して総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	社会福祉士養成講座のテキストを基にして授業を行い、詳細な説明が必要と思われる部分に関しては適宜解説を行っていく。基本的にプリントを用いた授業を行うが、必要に応じて視聴覚機器を活用していく。また、内容によっては演習形式を取り入れることもある。今まで学習してきた内容と毛色が異なり理解しづらいかもしれないが、社会福祉士として仕事に携わっていくためには欠かせない知識である。また、社会福祉士等の資格試験も念頭において授業を行うので、理解できない部分があれば質問を行って学習を深めて欲しい。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業の進め方、福祉サービスの組織・経営を学ぶ意義		
	2	オリエンテーション	社会福祉施設の体系、福祉サービスと制度①		
	3	オリエンテーション	社会福祉施設の体系、福祉サービスと制度②		
	4	オリエンテーション	社会福祉施設における福祉サービスの理念		
	5	福祉サービスにかかわる組織や団体	ガバナンスとコンプライアンス		
	6	福祉サービスにかかわる組織や団体	法人の種類① 社会福祉法人		
	7	福祉サービスにかかわる組織や団体	法人の種類② 特定非営利法人		
	8	福祉サービスにかかわる組織や団体	法人の種類③ その他の法人		
	9	福祉サービスにかかわる組織や団体	法人の種類④ その他の組織・団体		
	10	福祉サービスの組織と経営の基礎理論	戦略		
	11	福祉サービスの組織と経営の基礎理論	事業計画		
	12	福祉サービスの組織と経営の基礎理論	組織に関する基礎理論		
	13	福祉サービスの組織と経営の基礎理論	管理運営の基礎理論		
	14	福祉サービスの組織と経営の基礎理論	集団の力学に関する基礎理論、現場見学		
15	福祉サービスの組織と経営の基礎理論	リーダーシップに関する基礎理論			

16	中間のまとめ	第1回から第15回までのまとめ
17	福祉サービスの管理運営の方法と実際	サービスマネジメント
18	福祉サービスの管理運営の方法と実際	サービスの質の評価
19	福祉サービスの管理運営の方法と実際	苦情対応とリスクマネジメント
20	福祉サービスの管理運営の方法と実際	サービスの提供のあり方の方向性
21	福祉サービスの管理運営の方法と実際	建物・設備管理
22	福祉サービスの管理運営の方法と実際	福祉サービスの管理運営の実際
23	福祉サービス提供組織の経営と実際	人事・労務管理①
24	福祉サービス提供組織の経営と実際	人事・労務管理②
25	福祉サービス提供組織の経営と実際	人材育成
26	福祉サービス提供組織の経営と実際	会計管理と財務管理①
27	福祉サービス提供組織の経営と実際	会計管理と財務管理②、現場見学
28	福祉サービス提供組織の経営と実際	情報管理
29	福祉サービス提供組織の経営と実際	福祉サービス提供組織の経営の実際
30	全体のまとめ	授業全体を通じたまとめ

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	社会理論と社会システム		担当教員 (実務経験)	森下 義亜 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	4年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	人々は誕生前から死後も、個人として、また集団、地域社会、国、世界の一員として、常に他者に影響を与え、与えられる存在である。本講義の目的は、そうした社会的な仕組みや影響を説明および解明するために必要な社会(科)学の系統的知識を学ぶことである。				
到達目標	社会のさまざまな分野のミクロ～マクロ・レベルにおいて生起する諸現象・問題を、社会理論や関連用語・命題によって複眼的に説明して論じることができる。				
テキスト・参考図書等	『社会学用語図鑑』 田中正人ほか プレジデント社				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	40%	小テストのほか、前・後半のまとめ課題、過去問課題、定期試験によって総合的に評価する。各評価要素の詳細や採点方法は初回に説明する。		
	レポート	%			
	小テスト	60%			
	提出物	%			
その他	%				
履修上の留意事項	講義には複数の参考書に共通する要点を整理した資料を用いる。各履修主題の理解を深めるため、関連するトピックや過去問の紹介と解説も行う。各学生の学習状況を数値化して複数回通知する。質問や理性的・建設的な要望には極力迅速に対応するので、遠慮なく申し出ること。本講義を通じて習得する考え方を、国家試験合格後のキャリアにも活かして欲しい。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	社会学の潮流と社会システム	社会学の成立と展開、社会システム論		
	2	日常生活と相互行為	社会関係、社会的行為、社会的役割		
	3	社会集団、現代家族の変容と課題	社会集団の種類、家族の変容と課題		
	4	法・経済と社会システム	法および経済の特徴と機能		
	5	組織と官僚制、社会構成	組織の仕組みと官僚制の特徴、社会構成		
	6	生活構造	生活構造の変化、生活の指標化		
	7	前半学習の総括	前半のまとめ		
	8	ジェンダー	性差の多様性と社会的対応		
	9	都市化と地域社会	変容する都市や農村の特徴と課題		
	10	人口構造と人口問題	人口変動と社会現象の関係		
	11	社会変動と社会運動	近代化の諸側面、社会運動の展開と形態		
	12	情報化と国際化	情報化の利点と課題、国際化とグローバル化		
	13	社会問題と社会学	社会問題の発生と捉え方		
	14	社会政策・計画・福祉、過去問課題	社会福祉政策・計画の諸側面、過去問課題		
15	後半学習内容の総括	後半のまとめ			

授業科目 (科目ID)	社会調査の基礎		担当教員 (実務経験)	米田 龍大 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	4年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	社会調査の意義と目的及び方法、統計法の概要、社会調査上の倫理や個人情報保護におよぶ広範囲な分野を説明でき、調査から得られたデータをパソコンを用いて適切に分析し結果を提示できるようになることを目的としている。				
到達目標	①社会調査の目的と意義、史的展開、基礎的な社会調査手法について説明できる。②社会調査上の倫理、個人情報の保護、統計法について説明できる。③調査研究報告に対し批判的に吟味できる。④パソコンを用いて、調査データを適切に分析し結果を提示できる。				
テキスト・ 参考図書等	テキスト:「最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座5 社会福祉調査の基礎」(中央法規) 参考図書:「国民衛生の動向2022年版」(厚生統計協会)、「社会調査の基礎-社会調査士A・B・C・D科目対応」(株式会社 弘文堂)				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	授業への参加態度、授業振り返りシート20%と最終テスト80%で評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
その他	20%				
履修上の 留意事項	主に配布資料と教科書を用いて講義を展開する。講義の一部では演習も取り入れる予定であるため、基礎的なパソコンの操作については自主学習が必要になる。教科書以外の参考文献は講義内で適宜伝える。社会調査は根拠に基づくソーシャルワーク実践に必須の科学、技術である。基礎的な知識と技術を獲得できるよう、楽しみつつ集中して取り組んでいただきたい。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス、社会調査概論(1)	本講義の目的、講義の全体像について確認する。 調査法からの反論:批判的に吟味できる。		
	2	社会調査概論(2):社会調査の史的発展、統計法	社会調査の歴史的発展、代表的な社会調査について説明できる。 統計法について説明できる。		
	3	調査法概論(3):統計法と統計調査の種別	統計調査の概要:公的統計、基幹統計、一般統計調査 他について説明できる。		
	4	調査法概論(4):適正な調査の条件	バイアス、交絡、統計的検定(危険率)について説明できる。		
	5	調査法概論(5):疫学研究法の理解	記述疫学;スノーの「コレラの感染拡大の阻止」 他について説明できる。 分析疫学;ドル&ヒルの「喫煙の肺がん発症影響」 他について説明できる。		
	6	調査の技法(1):研究デザイン	調査デザイン、操作的定義、データ収集方法について説明できる。		
	7	調査の技法(2):調査票の作成(演習形式)	調査票作成時の留意点、調査項目の設定、質問文作成の注意点、変数の種類について説明できる。		
	8	調査の技法(3):調査データの取り扱い(演習形式)	調査データの取り扱いに関する留意点、量的解析に向けたデータの取り扱い手法について説明できる。		
	9	記述統計:適切な図表の作成(演習形式)	図表の特性について理解し、適切な図表を作成できる。		
	10	推測統計(1):相関分析、単回帰分析(演習形式)	相関分析、単回帰分析について説明できる。		
	11	推測統計(2):平均値の検定、 χ (カイ)二乗検定(演習形式)	t検定、 χ (カイ)二乗検定について説明できる。		
	12	推測統計(3):多変量解析(演習形式)	重回帰分析、ロジスティック回帰分析について説明できる。		
	13	質的調査の方法(1)	質的調査の概要、調査法の特徴について説明できる。		
	14	質的調査の方法(2)	質的調査の企画、分析、実施手法について説明できる。		
15	総括:根拠に基づくソーシャルワーク実践に向けて	社会調査の有効性と限界について説明できる。 ソーシャルワークにおける社会調査の活用事例について説明できる。			

2022年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)			担当教員 (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>	
対象年次・学期			必修・選択区分	単位数	
授業形態			授業回数(1回90分)	時間数	
授業目的					
到達目標					
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%			
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

	16		
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	福祉行財政と福祉計画	担当教員 (実務経験)	安田 昌彰 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 社会福祉士として社会福祉士事務所を運営		
対象年次・学期	4年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	福祉の行政・財政の実施体制(国と地方自治体との関係、国・都道府県・市町村の役割、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む)とその実際を理解するとともに、福祉計画の種類と国・都道府県・市町村の位置づけや内容、住民参加のあり方や計画策定義務の有無などについて学びます。				
到達目標	福祉行政の組織、国と地方自治体の関係、財源の現状について説明でき、各福祉計画について根拠法と関連付けて述べることができる。				
テキスト・参考図書等	『新・社会福祉士養成講座10 第5版 福祉行財政と福祉計画』社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	定期試験、授業中の発言内容や質疑など総合的に判断して評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の留意事項	社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画は学習内容が多岐にわたっております。特に最新の福祉行財政は政治経済状況により大きく変化しており、その内容は国家試験の問題に反映されておりますので、テレビや新聞等でその動向をしっかりとチェックしておきましょう。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	福祉行財政と福祉計画	福祉と制度		
	2	福祉行財政と福祉計画	福祉の法制度の展開		
	3	福祉行財政と福祉計画、福祉行政	福祉計画の概要、行政の骨格 社会福祉と法制度		
	4	福祉行政	福祉行政の組織 社会福祉基礎構造		
	5	福祉財政	財政と社会福祉 一般会計予算と社会保障関係費の動向		
	6	福祉財政	地方自治体の財政と民生費の動向 民間社会福祉事業の財源、福祉サービスの利用と費用負担		
	7	福祉行政の組織・団体と専門職の役割	社会福祉基礎構造改革 相談過程 相談体制		
	8	福祉行政の組織・団体と専門職の役割	専門諸機関 地域の相談システム 専門職		
	9	福祉計画の目的と意義	福祉計画の目的・意義とは 福祉援助の現場から福祉計画へ、計画のリサイクルと福祉援助の現場		
	10	福祉計画の理論と技法	福祉計画の基本的視点 福祉計画の過程と留意点		
	11	福祉計画の理論と技法	福祉計画におけるニーズ把握 評価 住民参加		
	12	福祉計画の実際	福祉計画の事例研究の視点 老人福祉計画・介護保険事業計画		
	13	福祉計画の実際	障害者計画・障害福祉計画 次世代育成支援行動計画		
	14	福祉計画の実際	地域福祉計画		
15	全体のまとめ	まとめと振り返り			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	就労支援サービス	担当教員 (実務経験)	橋本 達志 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 精神保健福祉士として就労継続支援事業所に勤務		
対象年次・学期	4年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	8回	時間数	15時間
授業目的	「働く」ことの意義と現代の労働環境、制度を知る。そのうえで、障害者、低所得者の労働環境を理解し、就労の支援の在り方を学ぶ。				
到達目標	就労支援に必要な制度について知る。				
テキスト・ 参考図書等	『新・社会福祉士養成講座18 第4版 就労支援サービス』社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	試験、提出物等、総合的に評価します。講義内に行うグループディスカッションや積極的な発言、質問なども評価します		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
その他	20%				
履修上の 留意事項	毎回プリントを配布します。配布されたプリントは各自保管し、指示がある場合には、見られるよう授業がある時には持参してください。板書されることをただ写すのではなく、メモを取るなど積極的に授業に臨んでください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	雇用・就労の動向と労働施策の概要	オリエンテーション、働くことの意味と社会福祉士の役割、雇用・就労の動向と施策①		
	2	就労支援制度の概要	雇用・就労の動向と施策②		
	3	就労支援に係る組織、団体の役割と実際①	障害者と就労支援①		
	4	就労支援に係る組織、団体の役割と実際②	障害者と就労支援②		
	5	就労支援に係る組織、団体の役割と実際③	低所得者と就労支援		
	6	就労支援に係る専門職の役割と実際①	障害福祉施策における専門職の役割、障害者雇用施策における専門職の役割		
	7	就労支援に係る専門職の役割と実際②	低所得者等の就労支援における専門職の役割、その他の就労支援の従事者		
	8	就労支援分野との連携と実際	連携の過程・意義・実際、様々な働き方の支援		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	更生保護制度	担当教員 (実務経験)	中村 さやか 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	4年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	8回	時間数	15時間
授業目的	制度や仕組みの狭間におかれた社会的弱者と犯罪との関連性、犯罪者の実態やその社会的背景を明らかにしたうえで、犯罪者が地域社会で排除されず生きていくために必要な福祉的支援や連携について理解することをめざす。				
到達目標	制度の意義や課題を述べることができる。 各制度の目的や流れ、関わる人々や機関について説明することができる。				
テキスト・ 参考図書等	『新 社会福祉士養成講座20 第4版 更生保護制度』社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	試験結果や授業中の発言内容等を総合的に判断して成績を評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	犯罪を犯したことは許されることではありません。しかし誰もが犯罪者になる可能性があります。たとえ犯罪者であっても1人の人間としてどう尊重されるべきか、常に問う姿勢で学習に臨むことが重要です。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	我が国の犯罪情勢・犯罪者処遇の現状	非行や犯罪臨床の概要、犯罪の現状、更生保護法、更生保護の歴史的展開、刑事司法における更生保護の位置づけ		
	2	更生保護制度の概要(1)目的・位置付け・調整	仮釈放等の種類や手続き、保護観察法の目的と方法、保護観察の対象者の種類とその特徴、保護観察対象者の終了後の状況、収容中の者に対する生活環境の調整、保護観察付執行猶予者の裁判確定前の生活環境の調整		
	3	更生保護制度の概要(2)保護観察以外の施策等	更生緊急保護の意義・対象者や期間。更生緊急保護の原則・内容・手続き、犯罪被害者等施策、恩赦、犯罪予防活動		
	4	更生保護制度の担い手	保護観察官の役割、保護司の身分・職務・現状等、更生保護施設、民間協力者の活動内容等		
	5	関係機関・団体との連携	家庭裁判所、地方裁判所、検察所、矯正施設、公共職業安定所、福祉事務所、その他		
	6	医療観察制度の概要	医療観察法の内容、社会復帰調整官の役割、生活環境調査、地域社会における処遇		
	7	更生保護制度の実際と今後の展望	保護観察官の業務の実際、社会復帰調整官の業務の実際、事例からみえてくる現状と課題		
	8	更生保護の今後の展望と全体のまとめ	国民や地域社会の理解、実効性の高い官民の協働、保護観察の充実強化		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

授業科目 (科目ID)	精神科ソーシャルワーク論Ⅳ		担当教員 (実務経験)	遠藤 克彦 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 精神保健福祉士として病院に勤務	
対象年次・学期	4年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	精神保健福祉援助技術各論では、精神医療の特性と精神障害者を対象とした支援の基本的考え方について理解をすることに焦点をあて、地域生活を基盤とした包括的な支援の意義と展開、必要な援助技術について学びます。				
到達目標	精神保健福祉援助技術の理論と技術を体系的に習得する。				
テキスト・参考図書等	『新・精神保健福祉士養成講座 第2版 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	ペーパーテストにて評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	講義を中心とするが、プリント、視聴覚教材を取り入れ、精神障害者に対する社会福祉サービスと援助の体系、共同課題等を総合的に理解できるような授業とする。精神保健援助技術の基本となる科目であり、実践現場で生きてくるのでしっかりと学習してほしい。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方	地域生活支援事業と訪問援助		
	2	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方	家族会およびセルフヘルプグループ		
	3	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方	精神保健福祉ボランティアの育成と活用		
	4	精神障害者のケアマネジメント	ケアマネジメントの原則		
	5	精神障害者のケアマネジメント	ケアマネジメントの意義と方法		
	6	精神障害者のケアマネジメント	ケアマネジメントの展開過程		
	7	精神障害者のケアマネジメント	チームケアとチームワーク		
	8	精神障害者のケアマネジメント	事例による精神障害者ケアマネジメントの検討		
	9	地域を基盤とした支援とネットワークング	地域を基盤にした支援の概念と基本的性格		
	10	地域を基盤とした支援とネットワークング	地域アセスメントとBSCおよびSWOT分析		
	11	地域を基盤とした支援とネットワークング	地域を基盤にした支援の具体的展開		
	12	地域を基盤とした支援とネットワークング	事例による地域を基盤にした支援の検討		
	13	地域生活を支援する包括的支援の意義と展開	包括的な支援の意義と展開		
	14	地域生活を支援する包括的支援の意義と展開	事例による地域生活を支援する包括的な取り組みの検討		
15	全体のまとめ	まとめ			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	精神保健福祉論		担当教員 (実務経験)	定平 憲之 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 精神保健福祉士として病院に勤務	
対象年次・学期	4年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	精神障害者の生活の実際を理解したうえで、地域で生活する精神障害者に対しての居住支援、就労支援の実際について理解する。 また、行政における相談援助について理解する。				
到達目標	障害者総合支援法の内容及び行政の役割について説明することができる。				
テキスト・ 参考図書等	『新・精神保健福祉士養成講座7 精神障害者の生活支援システム』日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規出版 福祉小六法				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	90%	定期試験、小テストにて評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	10%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	必要に応じてプリント、視聴覚教材を活用します。精神保健福祉士にとって中核となる科目です。積極的かつ十分な学習を心がけてください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	精神障害者の概念	精神保健福祉法による「精神障害」の定義規定		
	2	精神障害者の生活の実際	精神障害者の現状		
	3	精神障害者の生活の実際	精神障害者の家族の現状		
	4	精神障害者の居住支援	居住支援制度の歴史的展開		
	5	精神障害者の居住支援	居住支援の実際と精神保健福祉士の役割		
	6	精神障害者の居住支援	確認小テスト		
	7	精神障害者の雇用・就業支援	雇用・就業支援制度の概要		
	8	精神障害者の雇用・就業支援	雇用・就業支援制度の概要		
	9	精神障害者の雇用・就業支援	雇用・就業にかかわる専門職		
	10	精神障害者の雇用・就業支援	確認小テスト		
	11	行政における相談援助	市町村における相談援助システム		
	12	行政における相談援助	都道府県における相談援助システム		
	13	行政における相談援助	行政における精神保健福祉士の役割と機能		
	14	行政における相談援助	確認小テスト		
15	まとめ	今までの振り返り			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	精神保健福祉援助演習Ⅱ		担当教員 (実務経験)	一戸 真由美 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 精神保健福祉士として教育委員会等に勤務	
対象年次・学期	4年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	精神保健福祉援助演習Ⅰで学んだ学習内容を基本とし、精神障がい者の生活や生活上の困難についての理解を深め、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。				
到達目標	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望的確に聞き取り、取り巻く状況や環境を含めて理解する力(アセスメント)を養うこと、また「当事者主体・当事者を中心としたチームアプローチの考え方」を主軸に置き、精神保健福祉士として当事者に届く相談援助の方法について理解し、可視化・言語化できる能力の習得を目指す。				
テキスト・参考図書等	『最新・精神保健福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習(精神専門)』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 中央法規出版 『新・精神保健福祉士用紙絵講座5 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 第2版』日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	グループディスカッション・ロールプレイの参加姿勢、発言内容、レポートの課題の提出状況などにより評価する。		
	レポート	20%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
	その他	50%			
履修上の 留意事項	本演習は参加者全員で事例の世界を共有し、援助者としての態度・行動を体験的に学習する時間となります。グループディスカッション・ロールプレイを用いた学習場面が多くなりますので、積極的に参加して下さい。なお、学習課題や理解の進捗状況により、予定が前後する可能性があります。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	演習の目的と意義、演習の進め方		
	2	課題別相談援助事例⑤	就労支援事例の検討(ストレングスモデル、個別支援計画、チームアプローチ・社会資源開発)		
	3	〃	〃		
	4	〃	〃		
	5	課題別相談援助事例⑥	家族支援事例の検討(個別・集団による支援、心理教育)		
	6	〃	〃		
	7	課題別相談援助事例⑦	長期入院者への地域移行支援事例の検討(アセスメント・プランニング)		
	8	〃	〃		
	9	〃	〃		
	10	課題別相談援助事例⑧	精神科リハビリテーション場面における個別・集団支援事例の検討		
	11	〃	〃		
	12	課題別相談援助事例⑨	訪問型支援、ピアサポート事例の検討(アウトリーチ)		
	13	〃	〃		
	14	課題別相談援助事例⑩	社会的排除・貧困・低所得などの課題をもつ事例の検討		
15	全体のまとめ				